

ほっかいどう NIE 通信

Newspaper in Education



発行 北海道 NIE 推進協議会 〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 北海道新聞社内 ☎011-210-5802 FAX011-210-5826

北海道新聞 NIE ホームページ (<https://nie.hokkaido-np.co.jp/>) でバックナンバーを閲覧できます

札幌で第8回北海道セミナー

探究学習に新聞活用を

「課題探究的な学習における新聞活用」をテーマにした第8回NIE北海道セミナーが8月9日、札幌市中央区の北海道新聞社で開かれた。会場からオンラインで配信され、道内外の教員ら約60人が参加した。

実践発表、グループ交流も



グループに分かれて新聞活用について話し合う北海道セミナーの参加者

北海道NIE推進協議会(菊池安吉会長)の主催。2部構成で行われ、第1部では日本新聞協会認定NIEアドバイザーを務める栗山町立栗山小学校の富樫忠浩教諭、札幌市立篠路西中学校の山田耕平教諭、遠軽町立丸瀬布中学校の武井翔教諭の3人が実践例を発表した。

富樫教諭は、安平町立早来小在勤中の2018年、胆振東部地震の際の総合的な学習の時間での実践を発表。「子どもたちの活動が新聞記事として報道されたり、子どもの作文が掲載された。NIEが絡むことで、学びの効果が得られた」と話した。

山田教諭は、朝の学活での生徒による「今日のニュース」発表や、学年の目標をはがき新聞にまとめた実践例などを報告した。こう

探究と対話 実践学ぶ

京都全国大会 ポスター発表初開催



NIE全国大会で初めて開催され、多くの来場者で混み合ったポスター発表会場

第29回NIE全国大会(日本新聞協会主催)は8月1、2の両日、京都市で開催された。全国の教員や報道関係者ら約1200人が参加。パネル討論や公開授業のほか、初開催のポスター発表を通じて大会テーマの「探究と対話を深めるNIE」について学んだ。

パネル討論でNIEの意義について京都教育大付属桃山中学校の神崎友子主幹

した学級経営・学年経営の取り組みを行う上で「新聞は効果的なツールの一つ」と語った。

武井教諭は生徒が興味・関心を持って課題を見つけ、理解を深め、発表につなげることを繰り返す探究サイクルの各段階で新聞を使った実践例を紹介した。「新聞を使うことで個別最適な学びを実現できる」と語った。

第2部は、まず24年度の実践指定校とNIEアドバイザーが紹介された。続いて23年度の実践指定校の中から、優秀な実践を行った札幌市立義務教育学校福移学園、浦幌町立上浦幌中学校、札幌新陽高校の3校を表彰。さらに3校を代表して福移学園の福本勇太教諭、上浦幌中の中村宏喜教諭、札幌新陽高の桜庭彩寧教諭が実践内容を発表した。

最後に参加者とNIEアドバイザーがグループに分かれて交流。実践の工夫などについて熱心に意見交換した。

全国大会に参加して

真夏の日差しが照りつける京都市で開かれた全国大会。1日目の基調提案では新聞と教育との関わりについて「予測困難な時代だからこそ、



答えのな
い問いに
どう立ち
向かって
いかか。

篠路西中教諭・山田耕平 NIEの意義再認識

自ら探り、協働を通じて問題を解決する力の養成を後押しする一つが新聞の活用である」と述べていた。

をかく賢さの大切さと呼びかけた。具体的には、AIは目的とルールが決まったものには強いが、抽象度が高い目標には弱い。そのため、IQ（知能指数）より企画力や相手の心を読むE

NIEの意義再認識

Q（心の知能指数）を育てることの必要性について呼びかけていた。2日目は2校の公開授業

に立ち会った。1校目は高校の論理国語の授業「多様性を問う 新聞記事のジェンダー表現」。中学3年生も含む生徒たちは、3月8日の「国際女性デー」に発行された全国紙や地方紙、

を分析するなど、多角的な視点で意見を主張する様子が見られた。もう1校が東日本大震災に関する中学3年社会科の授業「原子力災害の今・自

存在を意識することを狙いに新聞が活用されていた。今回の大会を通して強く実感したのは、ネット空間に膨大な情報が行き交う世界でアルゴリズムの弊害を知り「情報を正しく選択する力」を身に付ける上でのNIEの今日的な意義の大きさだ。NIE活動を一つの手だてに「子どもの主体的な学びを支援する伴奏者」として、未来志向の教育課程を実現させたい。

対話生むデジタル新聞

京都教育大付属小 スクラップで活用

全国大会・実践発表

京都教育大付属桃山小学校には、特例の情報科「メディア・コミュニケーション科」がある。NIE全国大会の実践発表で井上美鈴教諭は、6年生で毎週1回行った昨年のデジタル新聞スクラップとデジタル新聞作成の実践を報告。児童が時間や場所を問わずにタブレット端末で新聞を読むことが習慣化したと成果を強調した。授業ではデジタル情報の功罪両面を教えることも説明した。



「読み書き交流する『デジタル新聞』これからのNIE」と題して行われた井上教諭の実践発表

スクラップには授業支援アプリを使用。児童は過去1週間分の全国紙のデジタル紙面から気になる記事を選び、スクリーンショットで記録する。その記事を選んだ理由や感想などを書き

込み、小グループで意見交流するうちに自然と対話が生まれ、記事を選ぶ観点の違いなどを知ることができるといふ。

授業ではデジタル新聞の利点と欠点も検証した。井上教諭は「スクラップの際に切り貼りが不要で、数日前の記事もすぐに検索できるのも魅力」と話した。児童からは利点として「記事を共有しやすい」「かさばら

ない」、欠点では「データが消える恐れがある」「物として残らない」などが挙げられたことを紹介した。さらに井上教諭は「今の時代は生成AIとSNSを使って誰でも発信者になれる。例えば目の前で起きた交通事故を簡単に発信できる。それで良いのかと問いてかけている」と述べ、肖像権やプライバシーへの配慮など、情報に責任を持つ力の大切さを指導していることを強調した。



福移の歴史学び新聞作って交流 札幌地区セミナー

第8回NIE札幌地区セミナー（北海道NIE推進協議会、北海道NIE研究会主催）が7月5日、札幌市東区の義務教育学校福移学園で開かれた。同学園の福本勇太教諭が5年生社会科「自然条件と人々のくら

この日は、壁に貼り出された互いの新聞を読んで交流。福移地区が何度も洪水に遭い、治水工事が続いていたことや、多くの生物がいて湿原が激減したことなどを理解した上で、それぞれの新聞を手直ししながら地域への理解を深めた。研究討議では「福移の歴史に興味のわく楽しい授業だった」「児童が1分間で自作の新聞の内容を説明する時間があれば理解が深まったのでは」などの意見が出ていた。

創意工夫 続く挑戦

23年度表彰 3校が報告

北海道N I E推進協議会は2023年度のN I E実践指定校全道35校から、優秀実践表彰校に札幌市立義務教育学校福移学園と十勝管内浦幌町立上浦幌中学校、私立札幌新陽高校の3校を選んだ。

教員が連携し、創意工夫を凝らした新聞活用を行ってきた各校の取り組みを紹介する。詳細は全35校の活動内容を紹介した23年度北海道N I E実践報告書に掲載している。



社会学習に「今年の漢字」
札幌新陽高 桜庭 彩寧 教諭

23年度で実践校6年目を迎えた私立札幌新陽高は、1年生の「言語文化」の授業で2時間ずつ、計6時間を使得って時事問題と漢字を結びつける実践を行った。

多くの生徒がインターネットの情報を依存的に、情報を取り取る力や判断する力を身につける必要がある。そこで日本漢字能力検定協会が主催する「今年の漢字」に応募し、1年間でどんな出来事があったのか

「複数の方法での情報収集が大切」「いくつか読むことでいろいろな見方ができる」と学んだ。社会参画の意識も高まり、札幌市雪対策室の方をお招きして持続可能な除排雪のために「市民もできることをしていく必要がある」と発表した。

上浦幌中は、23年度にN I E実践校として3年目を迎えた。国語科を中心とした取り組みを紹介する。1年生では「広告を作ろう」の授業を展開した。家庭科教諭と連携し、食堂に食育、健康に関する広告を掲示。多目的室にも新聞広告を貼り出した。これらを参考に各自が「設定され



20位に入った「税」「暑」「薬」などの漢字に関する記事を探してポスターを作った。今年1月17日の3回目の授業でポスター完成。発表・情報交換会も開かれた。

国語力養うニュース要約

十勝・上浦幌中 中村 宏喜 教諭



3紙読み比べ視野広げる
札幌・福移学園 福本 勇太 教諭

小中一貫9年制の福移学園は、22年度から実践校となっている。23年度は担任した6年生のクラスで週1回、朝の15分間のN I Eタイムを設定。記事の一つ選んだ日直当番の児童が要約内容を紹介し、感想などを述べる。続いて児童たちは当日の新聞1面などをタブレット端末で読んだ。

憲法記念日の紙面読み比べでは3紙を読んで書き方や見出しの違いに気づき、紹介。教員からの質問に答える形で取り組んだ。3年生は朝の会で「今日のニュース」のコーナーを設け、要約したニュースを発表する形で始めた。

夏休みは新聞スクラップに取り組んだ。学年ごとのテーマを設定し、各自が10以上の記事を選んで作成した。全十勝スクラップコンクールに出品して最優秀賞のほか各学年から入賞者が出た。委員会活動では「新刊図書紹介新聞」を作成。本の帯の内容などを生かし壁新聞形式で紹介したII写真II。

つながりの中に生きる私たち

朝日新聞北海道報道センター 武山 忍

農業と新聞で学べるもの



【生命誌絵巻】 協力：団まりな 画：橋本律子



1ページ)も作った。その編集委員会の特別アドバイザーでJT生命詩研究館名誉館長の中村桂子さんは、生きものについて語るときに一枚の絵を紹介する。「生命詩絵巻」だ。

「ち」とともに、社会的な動物である人間は、「社会の中の私たち」を学ぶことも欠かせない。それには新聞が役立つ。美唄市の農業科の考え方や取り組みを知るほどに、そう強く感じるようになった。

美唄市の小学校で昨年に始まった「農業科」の授業をご存じだろうか。「農業を学ぶ」のではなく「農業で学ぶ」。何を学ぶのか、私たちは生きものであるということだ。

冒頭、冷たい田んぼの水にはしゃいでいた子どもたちの表情に、少し責任感が宿ったように見えた。田植えの後、地元農家や地域おこし協力隊員らに支えてもらいながら、半年以上をかけてイネとじつくり向き合う。それを通して、生きものは時間が必要なことで、生きものは手をかけることが大事であること、生きものは思い通りにならない場合があることを体験する。

一番下の扇の要が生命の誕生、それから40億年を経て、今は一番上の扇の広がり、多様な生きものが描かれている。生きものとしての人間も入っている。生きものは多様であるが、40億年前の海にいた先祖細胞から進化した仲間であることを表している。

中村さんは読本の冒頭で、農業科の授業について「人間同士はもろろん、全ての生きものがつながった仲間であり、みんなで支え合いながら生きていくことが大事だ」と書いていくことを学べる。楽しい時間」と書いていくことを学べる。生きものの中の私たちが

新聞協会NIE学習効果調査

読み書き能力向上9割

日本新聞協会は7月11日、全国の小中高校で行った学習効果調査の結果をまとめた。NIE実践後の変化で児童生徒の「読む力」「書く力」や、教員の指導力などが「伸びた」(大幅に伸びた、少し伸びたを含む)と回答した学校が9割以上に達した。

今年1、2月、実践指定校やアドバイザー在籍校など計1147校を対象に調査(回答率50.6%)。児童生徒の「読む力」が「伸びた」とした学校の割合は全体の94%、「書く力」は93%で、「理解力・考えを深める力」が92%、「主体性」は90%と続く。

「聞く力・話す力」も87%と、多くの学校が成長を実感していた。「その他の資質・能力等の変化」に関する記述式の回答では新聞読書の習慣化、メディアリ

テラシーや読解力・表現力の向上、社会や他者への興味・関心が高まったといった回答が寄せられた。教員の指導力についても教材研究・情報収集力が向上したとの記述が多く寄せられ、90%の学校が「伸びた」とする回答を寄せた。NIEの内容上位3項目は①授業での活用②朝の時間や帰りの会など短い時間で新聞に親しむNIEタイム③調べ学習。実践頻度は「週に1回以上」が最多の34%で「月に1、2回程度」と合わせると59%と全体の半分以上を占める。

結果について新聞協会の関口修司コーディネーターは「毎週1回以上の日常的な実践によって教師の指導力や児童生徒の力が大きく向上する。年に数回では大幅な伸びは期待できない」と指摘している。

編集後記

〇…道民には厳し過ぎる暑さの京都市で、NIE全国大会が開かれた。初開催のポスター発表は会場内を移動するにも一苦勞という大にぎわい。興味深い発表の一つに関東学院六浦中学・高校(横浜)の司書教諭による「学校図書館における『新聞カフェ』の実践」があった。2022年12月から毎月1回、参加を希望する生徒や教員が新聞を5~10分間読んで話題にしたいトピックスを決め、自由に発表、意見交換を行う。立場や年齢の違う人たちの考えを聞くことで、社会の出来事を考える視野が広がるという。ポスター発表では、このほかにも取材してみたいと思う多くの取り組みが紹介されていた。来年の全国大会でも続けてほしい。(福)